

今 井 城 跡

長野県佐久市今井字城 今井城跡発掘調査報告書

2010. 3

東京電力株式会社
佐久市教育委員会

例　言

1. 本書は東京電力株式会社 千曲川電力所による前堰水路復旧工事に伴う今井城跡の発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 東京電力株式会社 千曲川電力所
3. 調査主体者 佐久市教育委員会 教育長
4. 遺跡名及び発掘所在地 今井城跡（IMI） 佐久市今井字城323-1
5. 調査期間及び面積 期間 平成21年8月20日～平成22年3月19日
面積 24m²
6. 発掘担当者 現場・整理作業 富沢 一明
7. 本書の編集・執筆は富沢が行った。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
本書作成にあたり、長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏にご協力を頂いた。記して感謝申し上げます。

凡　例

1. 遺構の略称は以下のとおりである。
D-土坑 P-ピット
2. スクリーントーン表示は以下のとおりである。

地山

須恵器断面

遺構 土坑 1/80 ピット1/80

遺物 土鍋・陶磁器類 1/2 石器類1/4 鉄製品1/2

4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
6. 土層は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

目　次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	
第1節 立地と経過	1
第2節 調査体制	1
第Ⅱ章 遺構と遺物	
第1節 土坑	3
第2節 ピット	3
第3節 出土遺物	3
第4節 調査のまとめ	4

写真図版

抄録



第1図 今井城跡位置図 (1:50000)

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過

佐久地域は周辺を山地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれる。北方には現在も活発な活動を続ける浅間山が聳えている。南には蓼科山、東は浅間山と蓼科山を繋ぐように北関東山地が連なり、南には御牧ヶ原・八重原といった台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久市の水系の代表は千曲川で、市内を二分するかのように貫流し、北（右岸）と南（左岸）では地質学的にも大きく異なる。北は浅間山の山麓末端部に広がる平坦な台地で、浅間の噴火によって火砕流及び降下火山灰が厚く堆積している。この堆積層は雨水による浸食に弱く、浅間の麓から放射状に幾筋にも削り取られ、浸食谷を形成している。（田切り地形）これに対して、南側は千曲川の氾濫源沖積地及び周辺山間部の支流を集めた河川の谷口扇状地で、河床疊層と沖積粘土層地帯となる。また、周辺地域は地下水位も高く安定した土地であることから南部地域一帯は広く水田として利用されている。

調査対象となった今井城跡は佐久市中央地域の今井地区に所在し、千曲川と滑津川が合流する地点の河岸段丘上に位置する。標高は670m内外で、千曲川との標高差は28mを測る。

今回、東京電力株式会社 千曲川電力所が行う前堰用水路復旧工事に伴い、試掘調査を実施した。その結果、対象地内において、中世と考えられる遺構・遺物が認められたことから、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を実施するはこびとなつた。

第2節 調査体制（平成21年度）

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清（～5月） 土屋盛夫（5月～）

事務局 社会教育部長 内藤孝徳（～6月） 工藤秀康（7月～）

社会教育部次長 金澤英人（～6月）

文化財課長 森角吉晴

文化財調査係長 三石宗一

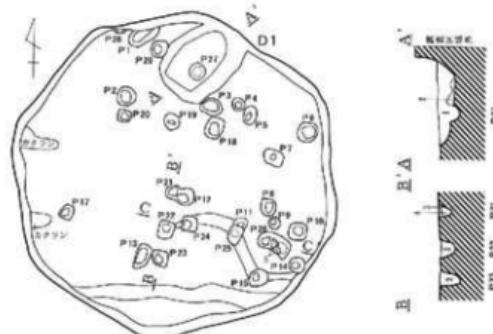
文化財調査係 林幸彦 並木節子 須藤隆司 小林真寿 羽毛田卓也 富沢一明
神津格（～9月） 上原学 井出泰章（10月～） 出澤力

調査担当者 富沢 一明

調査員 小林妙子 林まゆみ 白田鉢住 菊池喜重 里見理生 阿部和人



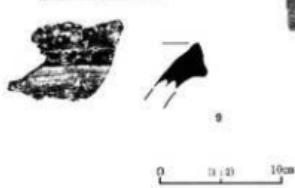
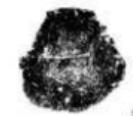
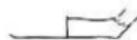
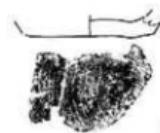
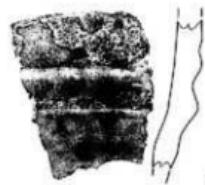
第2図 今井城跡位置図 (1:10000)



0 高さ668.00m 2m
(1:80)

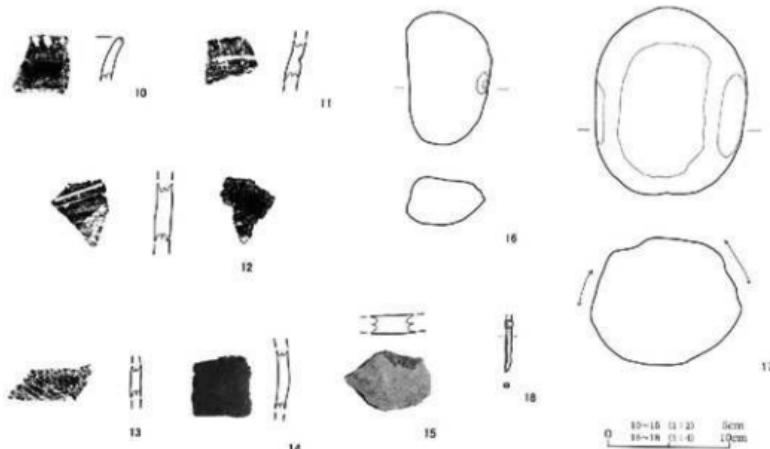


1. 黒色土層(10YR2/1)しまりややあり、粘性弱い。
しっとりした土。
2. 細色土層(10YR4/6)しまり、粘性弱い。砂質化
3. 反黃褐色土層(10YR4/2)しまり、粘性弱い。
4. 黄色土層(10YR4/6)しまり、粘性弱い。砂混じり



0 (1:2) 10cm

第3図 今井城跡調査全体図及び出土遺物



第4図 出土遺物

第二章 遺構と遺物

今回の調査面積は24m²という城域から考えると極めて狭い範囲であったが以下のような遺構・遺物が検出された。以下発見された遺構と遺物について記す。

第1節 D1号土坑

本址は調査区北側に接するように検出された。形態は楕円形で、規模は長軸1.4m・短軸1.1m・深さは確認面より26cmを測る。覆土は黒色でピット群とは明らかに異なる。出土遺物は14に示した弥生鉢胴部破片と考えられる土器片と写真に示した黒曜石剥片が出土したのみである。本址の所産時期は不確実な部分もあるが、弥生時代中期から後期のいずれかに比定されると考えられる。

第2節 ピット群

ピットは計28個が検出された。形態はいずれも方形を基調とし、深さは9~48cmとばらつきがある。覆土はいずれも灰黄褐色土で、強度は弱い。出土遺物はP24から出土した16の敲石とP26から出土した17の磨石があったのみである。これらピット群の所産時期はその形態から中世と考えられる。

第3節 出土遺物

今回の発掘調査で出土した遺物は非常に少なかったが、弥生時代・中世を所産時期とする遺物が出土したのでその特徴を個々に記す。1.4.5は土鍋片である。いずれも在地産で、1は15世紀末の所産時期が考えられる。6はカワラケの口縁部、7は18世紀の瀬戸・美濃の香炉片、8は常滑の甕か壺の破片である。9は須恵器甕の口縁部破片。10~15は弥生土器の範疇と考えられる。10は甕か壺の口縁部で口唇部に指突がある。11は壺の頸部破片で1本の沈線が残る。12と13は壺の胴部破片であり、細かな櫛目状の整形痕が残る。14は鉢か环の胴部破片と考えられる。15は底部である。16は敲石、17は磨石と考えられる。18は角釘の一部である。これら遺物の出土位置は16.17以外はいずれも遺構検出時の出土である。

第1表 ピット計測表

(単位 cm)

番号	計測値 (径×深さ)	番号	計測値 (径×深さ)	番号	計測値 (径×深さ)	番号	計測値 (径×深さ)
P 1	56×23	P 8	32×13	P 15	34×48	P 23	34×36
P 2	32×28	P 9	23×18	P 17	28×12	P 24	33×22
P 3	36×9	P 10	35×23	P 18	38×21	P 25	34×37
P 4	22×17	P 11	26×14	P 19	29×42	P 26	55×32
P 5	32×28	P 12	30×14	P 20	26×27	P 27	28×14
P 6	37×23	P 13	44×11	P 21	26×20	P 28	20×19
P 7	38×34	P 14	28×32	P 22	35×27	P 29	32×22

第4節 調査のまとめ

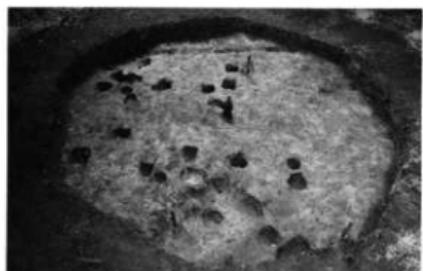
今回発掘調査を行った今井城跡で過去に考古学的な調査が行われた記録はない。よって、今回が本城跡の本格的な初めての発掘調査となった。しかし、現在確認できる堀切り跡から台地内側の平坦部面積でも約4500m²を測る城域の内、僅か24m²という極限られ調査範囲からの成果では自ずと限界があるのも事実である。

よって、本節では調査成果をもとに現時点で把握できた今井城跡の姿についてふれ、調査のまとめとしたい。今回発見された遺構は先にも触れたが、土坑とピット群である。土坑に関しては覆土の状況や出土遺物より所産時期を弥生時代と想定した。よって城跡に関係するものはピットで示された建物跡である。調査面積から建物全体は把握できなかったが、北東コーナー部と南西コーナー部がそれぞれ現れた2棟の建物址があるようにも見られる。また、出土遺物は土鍋、カワラケ、常滑焼片といった陶磁器類と鉄製品があった。土鍋は形態より15世紀末に在地で焼かれたものと考えられる。このことから今回の建物址もおおよそ中世後期（15～16世紀代）と推定される。

なお、「今井」の地名から思いつくものとして中世前期に活躍した今井四郎兼平がいる。兼平は木曾義仲に従い平氏追討に活躍する武士であるが、その本貫地として長野県では岡谷市、松本市、佐久市、長野市の4地点の今井地籍が比定されている。しかし、兼平の父や兄弟の根拠地が木曾や伊那である事を考えると岡谷市と考えるのが妥当であると考えられている。（参考文献：佐久市志・中井編）



第5図 今井城塙跡推定図 (1:2500) 「図解 山城探訪 第九集」宮坂武男著参照



調査区全景



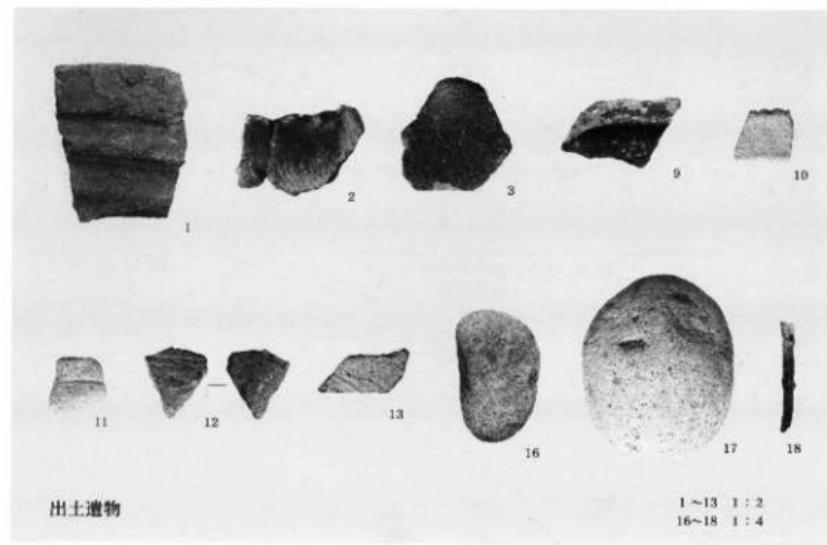
D 1号土坑全景



ピット群調査風景



今井城跡堀切状況



報告書抄録

ふりがな	いまいじょうあと
書名	今井城跡
副書名	長野県佐久市今井字城今井城跡発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第178集
編著者名	富沢・明
編集機関	佐久市教育委員会 文化財課
所在地	〒385-0006 佐久市志賀5953 Tel.0267-68-7321
発行年月日	2010年(平成22年)3月19日
遺跡名	今井城跡
遺跡所在地	佐久市今井字城323-1
遺跡番号	236
緯度	36°14'55"
経度	138°26'51"
調査期間	(現地) 平成21年8月20日~8月24日 (整理) 平成21年8月25日~平成22年3月19日
調査面積	2.4m ²
調査原因	東京電力株式会社千曲川電力所による前堰水路復旧工事
種別	城館跡
主な時代	中世
主な遺構・遺物	土坑 ピット 弥生土器、土鍋、陶磁器類、鉄製品
要約	中世後期と考えられる建物址の一部を調査する。堰に区切られた台地先端部であるため城館内と考えられるが、城館を積極的に示す遺物は出土しなかった。
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第178集

今井城跡

編集・発行 佐久市教育委員会
 長野県佐久市中込3056
 文化財課
 長野県佐久市志賀5953
 電話 0267-68-7321
 印刷所 キクハラインク有限会社